

1 前期 保護者アンケート集計結果より

調査人数 : 1年 69名/71名 2年 81名/84名 3年 67名/68名
 4年 70名/72名 5年 74名/81名 6年 75名/76名
 全校 436名/452名 (回収率 96.5%) ※さくら学級6名は当該学年でカウント

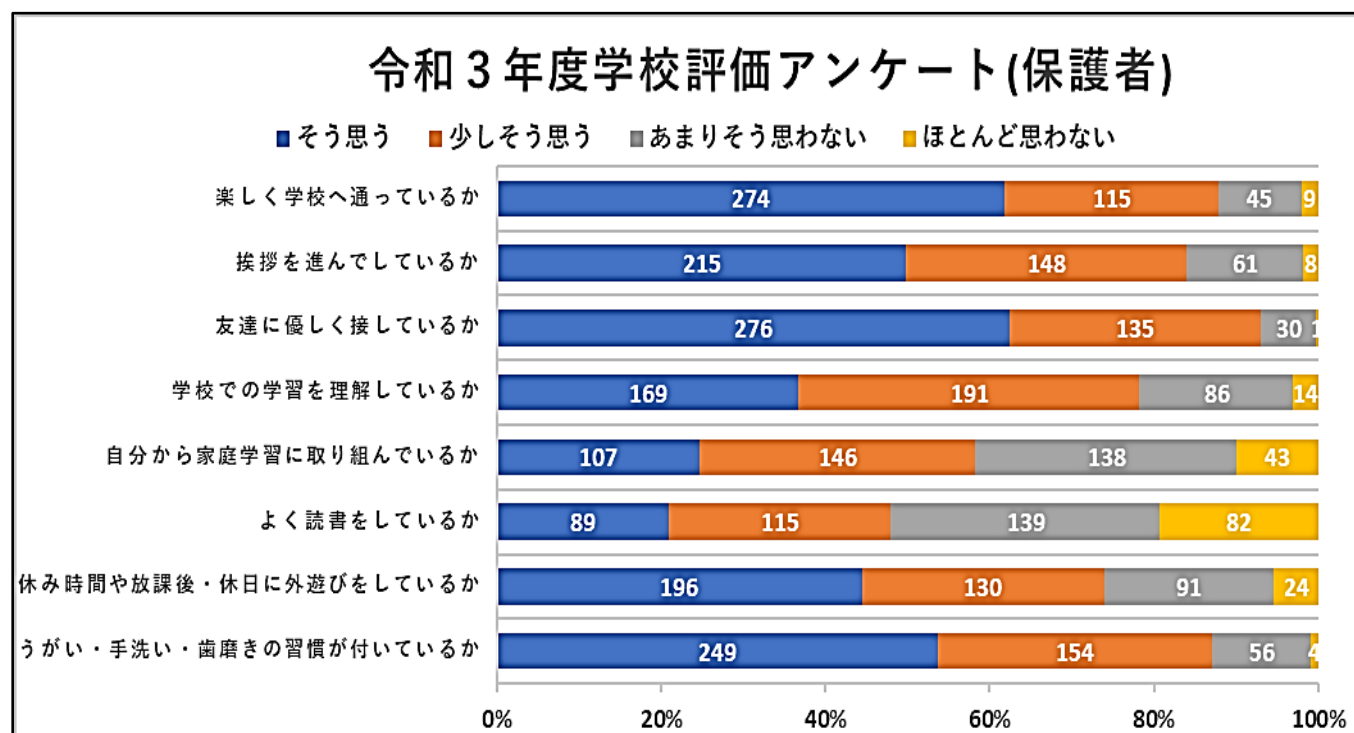
①全項目の学年別平均値

※表の数値は、そう思う(4) ・ 少しそう思う(3) ・ あまりそう思わない(2) ・ ほとんどそう思わない(1)として計算したときの平均値を表す。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	R2年度 前期平均	R1年度 前期平均	H30年度 前期平均
楽しく学校へ通っているか	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7
挨拶を進んでしているか	3.4	3.2	3.2	3.3	3.5	3.5	3.3	3.3	3.2	3.3
友達に優しく接しているか	3.7	3.5	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.6
学校での学習を理解しているか	3.2	3.1	3.0	3.1	3.2	3.3	3.1	3.2	3.0	3.2
自分から家庭学習に取り組んでいるか	2.8	2.7	2.9	2.7	2.9	2.7	2.8	2.7	2.7	2.7
よく読書をしているか	2.5	2.6	2.6	2.5	2.3	2.2	2.4	2.6	2.5	2.6
休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか	3.2	3.2	3.3	3.0	2.9	3.1	3.1	3.2	3.4	3.3
うがい・手洗い・歯磨きの習慣が付いているか	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.2	3.2

※色付きは昨年度平均や今年度平均よりも数値が下回っているもの

②項目別の人数別割合



考察

「①全項目の学年別平均値」における全体の平均をみると、「友達に優しく接しているか」「自分から家庭学習に取り組んでいるか」「うがい・手洗い・歯磨きの習慣が付いているか」の3項目が昨年度前期平均よりも0.1上昇している。

これらの項目が上昇した理由として考えられることは、家庭で過ごす中で、保護者と学校での出来事を話したり、放課後や休日での友達と過ごす姿を見聞きしたりすることで、他者との関わり方に優しさを感じる側面が多々あったこと、コロナ禍により学習面で家庭学習の重要性や、手洗い・うがい等の徹底が更に増したことが考えられる。

一方、数値の低下幅が-0.2と一番大きいのは「よく読書をしているか」の項目であり、各学年の平均値をみると特に高学年が低い数値となっている。高学年は習い事等で放課後や休日の余暇時間が少ないことや、スマートフォンやPC等の普及でSNSやメール、調べごとやゲームなど様々なことが手軽にできるようになり、読書をすることから遠ざかってしまっていることも要因として考えられる。さらに、緊急事態宣言の時期もあったことから、図書館等に外出する機会も少なかったことも一因としてあるだろう。

数値の低下幅が-0.1は2項目あり、「学校での学習を理解しているか」「休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか」であった。「学校での学習を理解しているか」の項目については、児童のノートやプリント、テスト結果等の学習状況を見ての保護者の評価である。基礎的・基本的な学習の定着が図れるよう、指導改善の工夫を行いながら引き続き学校は努力が必要であるとともに、家庭とも連携協力を深め学校での学習を補完していただくことや、予習復習を継続して行うようにしていくことが大切である。

「休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか」の項目では、4年生、5年生が低い数値となっている。コロナ禍で思うように遊びができず、友達との関係も希薄になりがちであり、ストレス発散も思うようにならないことと考えられる。学校では密にならないよう遊び方を制限していたり、放課後や休日等に行っている地域のスポーツクラブ等でも一定の制限もあつたりする等、体を思いきり動かすことができないでいる。また、昨年度よりも公園等で遊ぶ子供たちの姿が増えてはいるが、コロナ禍以前のように遊べていないという状況であるというのが各家庭の評価数値として表れた結果であると考えられる。

新型コロナウイルス感染が少なくなっている今現在の状況ではあり、学校でも少しずつ学習の行い方や遊び方に幅を広げることができている。また、児童一人一人に配付されたタブレット端末において、学校全体で活用方法を共有することで、児童が様々な学習の中で活用が進んでいる。学校は学習を通して基礎的・基本的な学力の向上を目指し、集団生活を通して社会規範や他者との関わり等を学んで成長をしていく場である。本校の教育目標である「豊かな心と主体性をもった、心身ともに健康な児童の育成」を具現化するためには、学校・家庭・地域が相互に連携して児童一人一人を育てていかなければならない。今年度前期の保護者アンケート結果をもとに、学校教育目標の達成へ向けて課題を改善し、より一層の努力を行っていききたい。

2 前期 児童学校生活アンケート集計結果より

調査人数 : 1年 68名/69名 2年 78名/84名 3年 65名/66名
 4年 69名/71名 5年 79名/81名 6年 75名/76名
 さくら 5名/6名 全校 440名/452名 (回収率 97.3%)

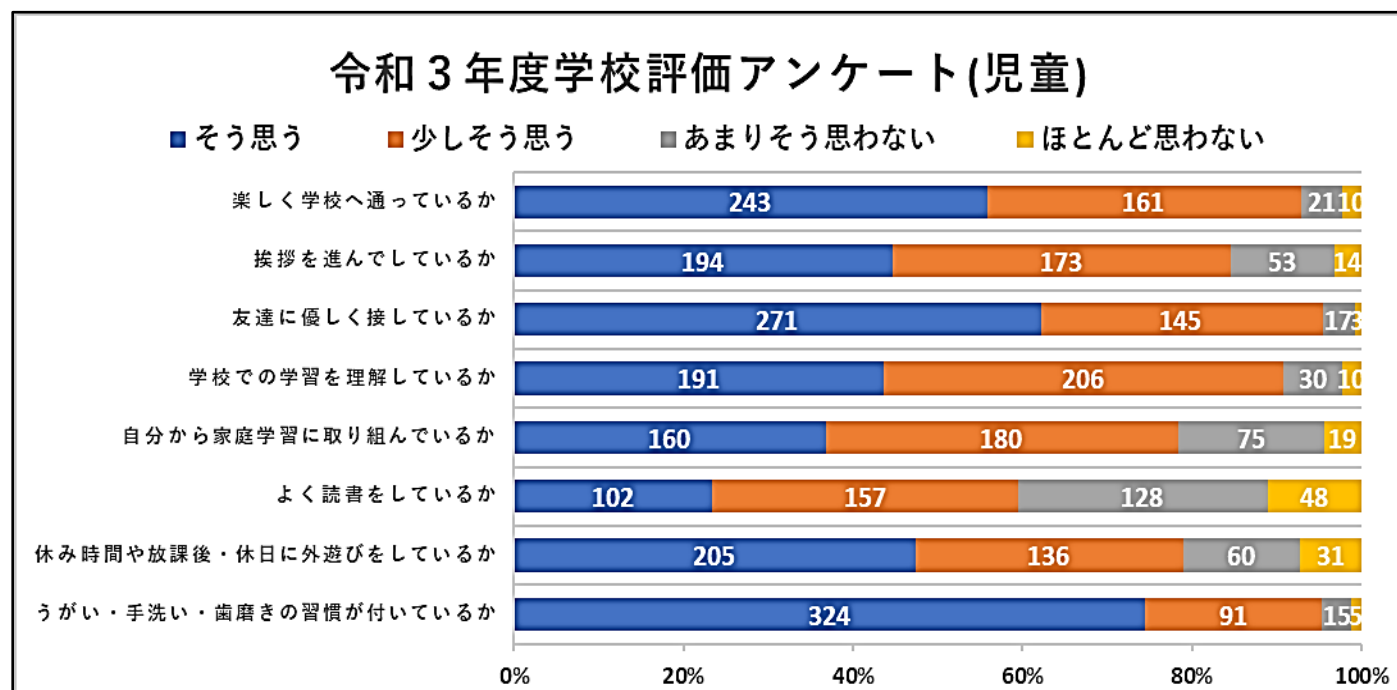
①全項目の学年別平均値

※表の数値は、そう思う(4) ・ 少しそう思う(3) ・ あまりそう思わない(2) ・ ほとんどそう思わない(1)として計算したときの平均値を表す。

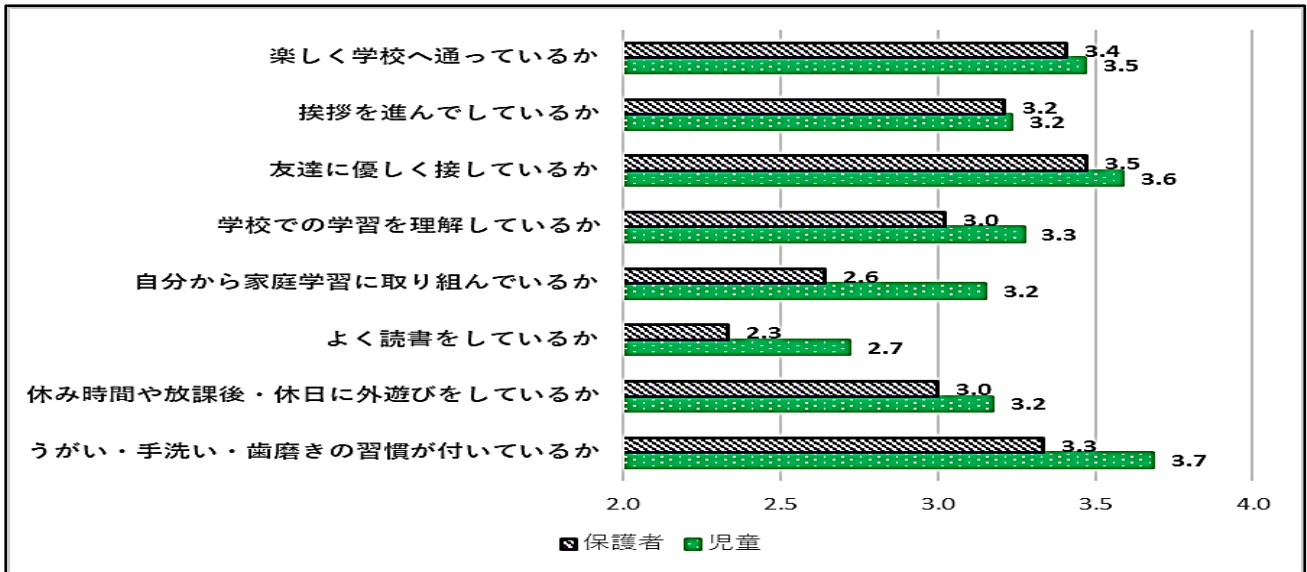
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	さくら	平均	R2年度 前期平均	R1年度 前期平均	H30年度 前期平均
楽しく学校へ通っているか	3.5	3.4	3.4	3.5	3.4	3.6	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4
挨拶を進んでしているか	3.2	3.1	3.2	3.3	3.4	3.3	3.0	3.2	3.3	3.2	3.2
友達に優しく接しているか	3.5	3.5	3.7	3.6	3.6	3.7	4.0	3.6	3.5	3.4	3.5
学校での学習を理解しているか	3.4	3.1	3.3	3.4	3.2	3.1	3.4	3.3	3.4	3.2	3.3
自分から家庭学習に取り組んでいるか	3.4	3.1	3.3	2.8	3.3	2.9	3.8	3.2	3.0	3.1	3.0
よく読書をしているか	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.2	3.4	2.8	3.0	3.0	2.9
休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか	3.2	3.2	3.2	3.3	3.0	3.1	3.4	3.2	3.1	3.3	3.3
うがい・手洗い・歯磨きの習慣が付いているか	3.6	3.7	3.5	3.8	3.7	3.8	4.0	3.7	3.7	3.6	3.6

※色付きは昨年度平均や今年度平均よりも数値が下回っているもの

②項目別の人数別割合



③保護者の結果との比較



考察

①全項目の学年別平均値表から、昨年度前期平均と比較し数値が上昇している項目は「楽しく学校へ通っているか」「友達に優しく接しているか」「自分から家庭学習に取り組んでいるか」「休み時間や放課後・休日に外遊びをしているか」の4つであった。昨年度の前期は休校から始まったことと比較となるが、感染症が少しずつ減少していく中、学校の楽しさ(友達との関わり、対面授業での学習等)を感じているからだと考えられる。また、現在もコロナ禍であることから、手洗い等は学校でも家庭でも徹底されていることもあり、児童の意識の高さが感じられる。

一方、低下している項目は「挨拶を進んでしているか」「学校での学習を理解しているか」「よく読書をしているか」の3つであった。「挨拶」に関しては、昨年度平均より0.1低下しており、学年別で見ると2年生とさくら学級の数値が低く、できていないと感じている児童が多いことがわかる。「学習の理解」に関しては、昨年度平均より0.1低下しており、特に2,5,6年生の平均が低いことがわかる。コロナ禍で様々な制限があり、グループで密になっての話し合いや教え合いができなかった。高学年は低中学年までの基礎的基本的な学習が身に付いていない場合は、学習が難しいと特に感じてしまうことと考えられる。児童が「できた」と達成感を感じることができるよう、授業改善に取り組む必要がある。「読書」に関しては、昨年度平均よりも0.2低く、年度ごとに見ても他項目と比較して一番低い数値となっており、読書をする児童としない児童の二極化が見られる。

③保護者の結果との比較グラフでは、保護者と児童の数値差が大きい項目は「自分から家庭学習に取り組んでいるか」が0.6差、「よく読書をしているか」「うがい・手洗い・歯磨きの習慣が付いているか」が0.4差となっている。家庭での過ごし方について、ゲームやPCでの動画視聴等、読書に親しむ環境が少ないということや、コロナ禍での「うがい・手洗い等」については保護者が充分と考えられるほどまでに児童の姿としては至っていないことがわかる。

上記のことを踏まえ、保護者と児童の意識の差が縮まるよう、後期へ向けて学校や家庭での生活面や学習面が充実できるよう、家庭と協力して指導改善に取り組んでいきたい。